



一般社団法人 日本LD学会
Japan Academy of Learning Disabilities

会 報 第109号

事務局

〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイビル 8F
TEL 03-6721-6840 URL <http://www.jald.or.jp>



主な記事

- ・文部科学省平成31年度予算の概要
～発達障害を中心に～
- ・厚生労働省における2019年度の
発達障害者支援施策
- ・＜連続講座＞将来の自立を目指した、
ライフステージを通じた支援
- ・第2回研究集会（東京）開催報告
- ・2018年度公開シンポジウム（東京）
顕在化しにくい発達障害の早期発見と
支援
- ・PATIO～実践の最前線～



多様で生きやすい社会を

京都教育大学

佐藤 克敏

先日、大学の仕事で学生と合宿研修を行った。研修のワークの一つで、学生がグループで行う研究テーマをいくつか出し合って検討している中に、「なぜうちの学生は群れるのか」というテーマがあった。このテーマを提案した学生曰く、「他の大学の学生よりも個人で行動している人が少ないように感じる」「一人でいると目立つ」「大学って一人でいてもいいし、もっと自由でいいのに」など、日頃疑問に感じていたであろう意見が述べられ、グループ内の他の学生も同意していたのが印象的だった。

経済産業省では社会人基礎力として、「前に踏み出す力（主体性・働きかけ力・実行力）」、「考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）」、「チームで働く力（発信力・傾聴力・柔軟性・情況把握力・規律性・ストレスコントロール力）」を取り上げており、これらの力が職場や地域社会の中で仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力であるとしている。同様に、新学習指導要領においても育成を目指す資質・能力として、「知識及び技能が習

得されるようにすること」、「思考力、判断力、表現力等を育成すること」、「学びに向かう力、人間性等を涵養すること」の3つの柱を掲げている。

このような考え方や社会の動向を批判する気はない。重要な力であるし、必要であると感じる。しかしながら、昨今の情勢をみると、社会も教育も甚だ自由度が低くなっているようにも感じる。先に示した学生の疑問はもっともなことであると思う。学生たちにとっても自由度の低い生きにくい社会になってきているのかもしれない。働く場や働き方についてもっと自由度があっていいだろうし、教育においてももっと自由度が高くていいのではないかと感じる。

一人の人が全ての力を身につけるような教育だけでなく、それぞれの人の持っている力を活かしたり、強みをさらに伸ばしたり、補い合ったりすることを考えた教育も大事なことであろう。障害のある子どもや人に関わっているとそう考えることが多い。